

試験研究, 受託事業 (生物情報収集調査) — マチ類の生物情報収集 —

上原匡人*1, 島田和彦*2, 秋田雄一*3, 太田 格*4, 海老沢明彦*5

マチ類の資源回復に向けて、沖縄県、鹿児島県および独立行政法人水産総合研究センター西海区水産研究所（以下、西水研）が共同で、2005年より南西諸島海域においてマチ類の資源管理の取り組みを実施している。平成26年度もこれまでと同様に、県内のマチ類の水揚げの9割以上を占める沖縄県泊魚市場有限責任事業組合鮮魚卸売市場において、漁場別の漁獲量や体長組成など漁業情報の収集を実施した（表、調査回数：95回、調査頻度：平均7.9回/月）。

本調査で得られたマチ類の漁業情報は、西水研が行う平成27年度マチ類（奄美・沖縄・先島諸島）の資源評価に活用され、我が国周辺水域主要魚種の資源評価（参照：我が国周辺の水産資源の現状を知るために

<http://abchan.fra.go.jp/digests27/html/2743.html>）にて報告されているので、詳細は割愛する。

また、県内に設定した保護区のうちハマダイの曾根である北大九保護区について、資源状態を把握するための効果調査を実施した。その結果、2014年度の保護区内での操業1回あたりのハマダイの漁獲尾数・漁獲量は、周年保護であった期間中（2006～2009年）よりも低い値であった（図）。保護区内における尾叉長組成のモード推移も、期間禁漁以降、依然として不明瞭であった。一方、保護区内におけるハマダイの成熟個体（68cm以上）は少なく、期間を通して明瞭な変化が認められなかった。

表 2014年度に泊魚市で調査した山数, 重量および個体数

	総調査山数	総調査重量 (kg)	総調査個体数
アオダイ	4,401	36,916.2	45,659
ハマダイ	5,109	27,755.8	26,201
ヒメダイ	3,188	24,525.1	43,889
オオヒメ	1,757	14,047.1	9,805

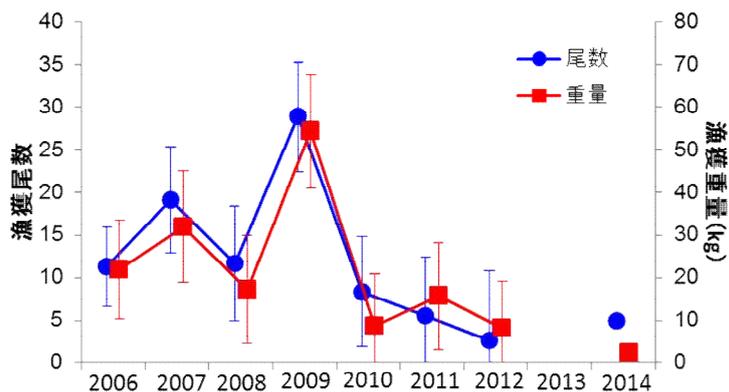


図 北大九保護区における操業1回あたりのハマダイの漁獲尾数・漁獲重量

*1 E-mail : ueharmst@pref.okinawa.lg.jp , 現所属 : 水産海洋技術センター普及班本部駐在

*2 元沖縄県農林水産部

*3 水産海洋技術センター本所

*4 沖縄県農林水産部水産課

*5 水産海洋技術センター石垣支所